

100円割れとなったドル円相場 －米利上げ時期の後ずれ観測が背景－

8月18日の外国為替市場では円高が進行し、一時、1米ドル=100円を割り込む動きとなり、今年に入って以降、3回目の100円割れとなりました。米国の利上げ時期の後ずれ観測が背景にあると考えられます。当面、米ドル安・円高圧力が強まりやすい状況が続くと見られますが、短期的な需給動向や米国のファンダメンタルズなどから、一方的な円高の進行には限度があると思われ、徐々に落ち着き所を探る展開となると考えられます。

米国の利上げ時期の後ずれを織り込む為替市場

8月18日の外国為替市場では円高が進行し、対米ドルでは、一時、100円を割り込む動きとなりました。今年に入って以降、100円の大台を割り込むのは、6月24日、8月16日に続く3回目となります。6月24日の際には、英国でのEU離脱に関する国民投票の結果を受け、リスク回避的な動きから安全通貨とされる円が買われる動きが強まったことなどが背景と見られます。

その後も、英国のEU離脱問題が世界経済に与える影響に対する懸念や、米国における雇用回復ペースの鈍化、設備投資回復の弱さなどを背景として、米国の利上げ時期が後ずれするとの見方が市場で支配的となり、米ドルの上値は重い展開が続き、8月16日には再度100円を割り込む動きとなりました(図表1)。

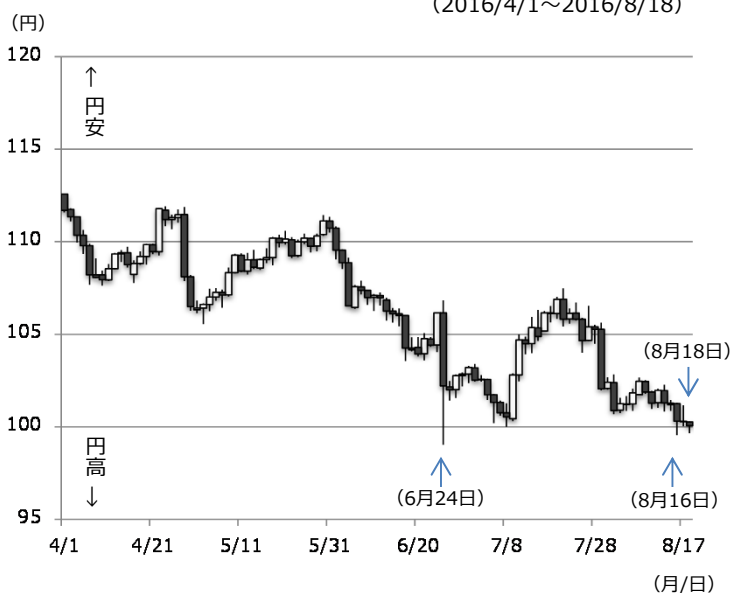
今回は米国で8月17日に発表された連邦公開市場委員会(FOMC)の議事録が早期の利上げを特に強く示唆するような内容ではなかったことから、市場参加者の間で9月の利上げ予想が後退し、円買いに繋がったものと推定されます。FOMCでの利上げの可能性に対して、金融市場が織り込む利上げ確率を見ると、9月FOMCでの利上げ確率は、今年の6月初めをピークに低下してきており、足元は、20%前後の水準となっています(図表2)。

短期的な円買いポジションは既に高水準

このように市場では、米国の利上げ時期が後ずれするとの見方が強まっていることから、円高方向に進みやすい状況にあると言えます。ただ、投機筋のポジション動向を見ると、足元の円買いポジションは、2010年以降の推移から見て、高水準となっています。

(図表1) 円相場(対米ドル)の推移

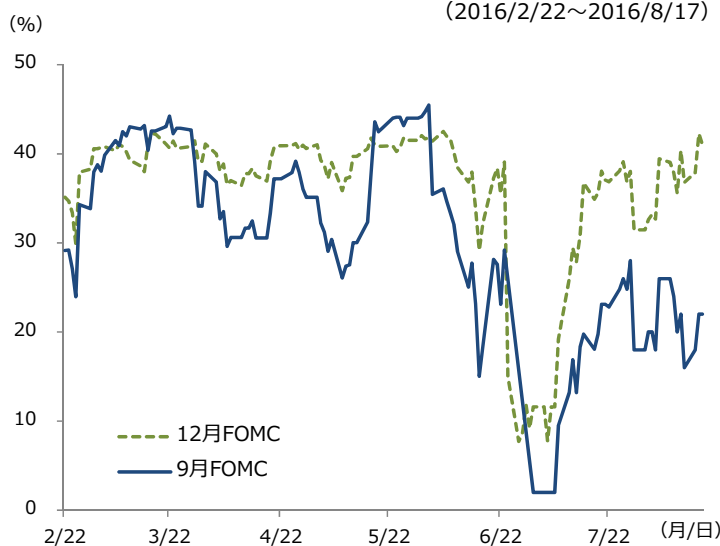
(2016/4/1~2016/8/18)



(出所) Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

(図表2) 米FOMC利上げ確率の推移

(2016/2/22~2016/8/17)



(出所) Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みには、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

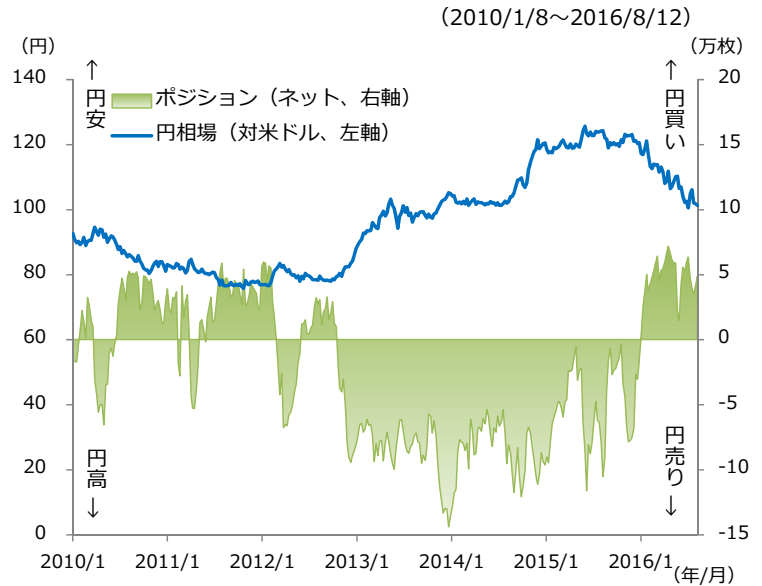
そのため、投機筋が円買いポジションを一段と積み上げる余地は小さいと推察されます（図表3）。

また、イベント面から見れば、次回の日銀金融政策決定会合とFOMCは共に、9月20日～21日に開催される予定となっています。日米の金融政策の重要イベントを控え、今後はイベントリスクが徐々に意識されると見られることから、ポジションを一方向に傾けることは、難しくなることが想定されます。

一方、ファンダメンタルズ面に目を向ければ、米国経済は、消費や住宅投資など家計部門が牽引する形で拡大が続いています。

このように、ポジション動向から見た需給面や、イベントリスク、米国の底堅いファンダメンタルズ面を踏まえれば、一方的な米ドル安・円高が進行する可能性は低いと見ており、徐々に落ち着き所を探る展開となることが想定されます。

（図表3）円相場（対米ドル）とポジションの推移



（出所）Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

以上（作成：投資情報部）

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

皆様の投資判断に関する留意事項

【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。

【留意事項】

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの分配方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

【お客様にご負担いただく費用】

- お客様が購入時に直接的に負担する費用
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.78%（税抜3.5%）
- お客様が換金時に直接的に負担する費用
信託財産留保額：換金時に適用される基準価額×0.3%以内
- お客様が信託財産で間接的に負担する費用
運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担
 純資産総額×実質上限年率2.052%（税抜1.90%）
 ※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料**
監査費用：純資産総額×上限年率0.01296%（税抜0.012%）
 ※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。
 ※監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

【岡三アセットマネジメント】

商 号：岡三アセットマネジメント株式会社
 事 業 内 容：投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業
 登 録：金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号
 加 入 協 会：一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社である岡三アセットマネジメント株式会社が運用する公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書（交付目論見書）」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。

<本資料に関するお問い合わせ先>

カスタマーサービス部 フリーダイヤル **0120-048-214**（9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く）